

令和元年度 磐田市立磐田第一中学校 学校評価書

目標・取組		評価指標	自己評価	考察や改善点等	学校関係者評価委員より
「未来を拓く力をもつ生徒を育てる」教育活動の推進	○社会で自立的に生きるために必要な資質・能力を育む学校づくり <生徒>  ○保護者や地域・社会に開かれた教育課程を通し、信頼される学校づくり <学校>	1 学校教育目標「未来を拓く力をもつ生徒を育てる」を意識して教育活動に取り組んでいる。(教師)	A	分析の数値は左からH29,2学期→H30,2学期→R1,2学期 <b>項目4 目指す子どもの姿や教育内容の理解</b> 分析 保護者 88%→88%→83% 学校で目指している子どもの姿や教育内容について、多くの保護者が理解していると回答している。今後も学校・学年・学級だより、ホームページ等を有効活用しながら、学校の教育活動の情報を保護者の方や地域の方に広く伝えていきたい。  <b>項目5・6・7 小中一貫教育を生かした研修や内容理解</b> 分析 教師 57%→53%→58% 生徒 90%→89%→91% 保護者 90%→89%→85% 生徒は小学校の先生や友達と交流することのよさを感じており、小中一貫教育に対する保護者の理解もある。それに対して、教師は小学校の研修内容を理解したり、授業から学んだりすることが進んでいない。まずは、なかいずみ学府学校風土向上作戦「あいさつ」「深呼吸」「Nスタイル」を軸にした共通実践を推進したい。	・学校の目指す方向性を保護者と共有していることで、より良い教育活動が進められている。そのため、子どもたちも充実した毎日を送ることができている。  ・小中一貫教育に関して教員は冷静な判断をし、適切な評価をしている。小中一貫教育がどうあるべきかを暗中模索していることが分かる。  ・中学校の教員が、小学校の教育内容を十分に理解する時間的な余裕がないのではないかと。
		2 一中では、生徒が自己の生き方や進路について、保護者とじっくり話し合う機会をもつよう働きかけている。(教師)	A		
		3 将来の進路について、家庭で話し合っている。(保護者)	A		
		4 学校が目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。(保護者)	A		
		5 小学校の研修内容を知り、小学校の授業づくりから学んでいる。<小中一貫>(教師)	B		
		6 中部小・西小の先生や友達と交流することの良さを感じている。<小中一貫>(生徒)	A		
		7 小中一貫教育で取り組んでいる内容を知っている。<小中一貫>(保護者)	A		
矜持 「自分らしさ」の創造  達成感 「健やかな心身と確かな学力」	○授業や部活動に主体的に取り組む一中生  ○進路(目標・夢)に向かって粘り強く取り組む一中生  ☆AL・Nスタイルの手法をいかした授業実践(研修の推進)  ☆自主性、主体性を重んじた部活動(目標の設定や練習方法の決定等、生徒が主体の部活動の推進)  ☆進路指導の充実	8 授業や部活動に主体的に取り組む生徒を育てるよう指導をしている。<矜持>(教師)	A	<b>項目9・10 「確かな学力」が身に付く授業の実践</b> 分析 教師9 92%→94%→96% 教師10 62%→66%→77% 学習の基本3項目や授業三感を意識した授業の実践は進んでいる。令和3年度の新学習指導要領完全実施に向けて、校内研修を充実させ「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善に取り組みたい。生徒が主体的に学ぶためには、ガイダンスで生徒に学びの見通しをもたせることが必要である。各教科でガイダンス機能を充実させる取り組みをしていきたい。  <b>項目13・14・15 きめ細やかな指導・支援</b> 分析 教師 81%→93%→75% 生徒 96%→95%→92% 保護者 82%→93%→82% きめ細やかな指導・支援については、生徒、保護者の評価は高い。それに対して、教師は課題を感じている。生徒が自らの力で学び続けるために、教師は生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、それぞれのつまづきに対して適切な助言をしていきたい。そうすることで、授業に主体的に取り組む一中生を育てていきたい。また、教師の個に応じた指導が子どもの姿で保護者に伝わるような取り組みを進めていきたい。	・生徒一人一人に対するきめ細やかな指導や支援が進められていることにより、「確かな学力」が身につけてきている。
		9 学習の基本3項目(2分前着席、授業に集中、予習・復習)と授業三感(共感、存在感、達成感)を意識して、「確かな学力」が身に付く授業を実践している。(教師)	A		
		10 学びのてびきを活用し、ガイダンス機能を充実させることができた。(教師)	B		
		11 ベーシックスタディ(基礎学力定着のための補充的な学習の時間)で基礎的な学力が身に付くよう指導している。(教師)	A		
		12 「ベーシックテスト」にすべて合格できている。(生徒)	A		
		13 個に応じたきめ細やかな支援・指導ができている。(教師)	B		
		14 先生は分かりやすく教えてくれる。(生徒)	A		
		15 教師は、個々の子どもによく分かるよう工夫して勉強を教えている。(保護者)	A		

側 隠	・側隠 「人間らし さ」の希求  ・共感 「豊かな共 生の心」	○気持ちのよいあいさつができる一 中生  ○ありがとが素 直に言える一 中生  ○黙って清掃に取 り組む一 中生  ☆常に教師が、率 先して清掃に取り 組みあいさつや返 事、感謝の言葉 を言う。  ☆道徳の時間の充 実（時間設定、資 料・授業案の共有 化、授業研究・評 価研修等の実施）	16	気持ちのよいあいさつができる生徒を育てるよ う指導をしている<側隠>（教師）	A	項目17・18・19「あいさつ」 分析 教師 71%→83%→79% 生徒 93%→92%→92% 保護者 86%→87%→88% あいさつに関しては、生徒、保護者の評価が高い。これ は、生徒会が毎週火曜日に昇降口であいさつ運動を実施した り、PTAが「ひびけ あいさつの声 笑顔でつなごう 親子 の輪」をスローガンに掲げ、「あいさつ運動」を軸に、PTA 活動を進めてきたりした成果である。ただ、あいさつに課題 を感じている教師も2割程いる。まずは教師自身が生徒や保 護者等に対して、気持ちのよいあいさつを心掛け、ともに笑 顔が溢れる学校を目指していきたい。  項目20・21・22 あたたかな言葉遣い 分析 教師 84%→79%→92% 生徒 93%→92%→92% 保護者 91%→93%→89% あたたかな言葉遣いに関しては、教師、生徒、保護者の評 価は高い。学校生活において、思いやりのある言葉かけ、接 し方ができる生徒が多い。道徳科の授業を中心に、思いやり の心をもって人と接すること、人としての生き方を深めるこ とを意識できる教育活動を仕組みたい。また、教師も人権意 識を高め、生徒一人一人に対して温かい言葉かけ、心に深く 寄り添った支援を継続し、信頼関係を深めていきたい。	・学校、PTA、自治会が、そ れぞれの活動の中で、「あいさ つ」を重点に置き、一体的に取 組んでいる。その結果、気持ち のよいあいさつが生徒、保護 者、地域で実践されている。こ れからも中泉地区の誇りとして 取り組んでいきたい。  ・授業参観をしたときに、男女 仲良く、和気あいあいと学んで いる様子を見ることができた。 これは、普段から教室の中で、 温かい言葉が交わされているか らであると思う。
			17	子どもは、進んで気持ちのよいあいさつをして いる。（教師）	B		
			18	進んで気持ちのよいあいさつをしている。 （生徒）	A		
			19	子どもは、進んで気持ちのよいあいさつをして いる。（保護者）	A		
			20	子どもたちは、相手の気持ちを考えた、あたた かな言葉遣いをしている。（教師）	A		
			21	相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉遣い をしている。（生徒）	A		
			22	子どもは、相手の気持ちを考えた、あたたかな 言葉遣いをしている。（保護者）	A		
			23	先生は、自分のことを分かってくれている。 （生徒）	A		
			堂 々	・堂々 「一中らし さ」の創出  ・存在感 「新たな一 中文化創出 の担い手意 識」	○行事やボラン ティアに意欲的に 取り組む一 中生  ・校歌を大きな声 で堂々と歌う一 中生  ☆生徒会を中心に 生徒が主体、生徒 が前面に出るよ う、行事やVS（ボ ランティア・サビス）の企 画を任せる。 （そのための時間 の設定や教師がつ く時間の確保。生 徒活動の場では、 教師が前面に出 ない。）		
25	子どもたちは、学級の中で、自分の役割を果た している。（教師）	A					
26	学級の中で、自分の役割をしっかりと果たして いる。（生徒）	A					
27	子どもたちは、進んで声を出し、歌うこと（合 唱）を楽しんでいる。（教師）	A					
28	朝の会や集会、帰りの会などで、自分から声 を出し、楽しんで歌っている。（生徒）	A					
29	子どもは、進んで声を出し、歌うこと（合唱） を楽しんでいる。（保護者）	A					
30	部活動では、子どもたちが集中して取り組んで いる。（教師）	A					
31	部活動に集中して取り組んでいる。（生徒）	A					
32	部活動に集中して取り組んでいる。（保護者）	B					

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校が目指す子どもの姿や教育内容を保護者、地域が共通理解して、子どもに関わり、育てていることで、よりより一中生の姿が多くの場面で見られている。特に、重点に置いている「あいさつ」は、これからも学校、PTA、地域が一体となって取り組むことで、気持ちのよいあいさつで溢れる学校を創り上げていきたい。本校の課題である不登校については、それぞれの子どもの実態を的確に把握し、組織的・計画的な支援を進めていきたい。